

二日間にわたる東大見学会が終わった。主な内容としては、一日目はディレクトフォースや企業大学訪問、そして東大に合格した二高 OBOG の話、二日目は東大オープンキャンパスだった。二日間という短い時間ではあったが、為になる充実した内容であった。これから、その充実した時間のなかで、印象に残っているものについて述べていく。

まず、一日目の企業大学訪問についてだ。私の班は、Oracle という外資系の企業を訪問した。まず、Oracle が候補に挙げたのは、Java 言語を管理している企業だからだ。班員のなかには、プログラミング経験があり、Java 言語を弄ったことがある人が私も合わせて数名いた。そこで、Oracle に行けば、何か役立つ情報を得られるのではないかと考え、Oracle にアポイントメントを取ることにしたのである。幸いにも、Oracle は快く引く受けてくださり、一日目の企業訪問先が無事決定した。担当の瀬戸さんには本当に感謝したい。そして訪問当日、私は一つだけはあるが、「Java は package というものを用いて、チームでプログラム開発を行うことがあるみたいですが、複数人で開発する際に重要になってくることは何でしょうか。」と質問をさせていただいた。それに対して瀬戸さんは、「互いに意見を伝え合いながらプログラム開発を進めるコミュニケーション力、粘り強く最後まで成し遂げる根気、納期に間に合わせることでですね。」とおっしゃっていた。プログラマーやシステムエンジニアには、コミュニケーション力と根気強さが必要だというのは察していたものの、「納期に間に合わせる」というのは私の頭にはなかった。今、私はこのレポートを提出期限を過ぎた中書いているのだが、自分に足りないのは期限に間に合わせるように計画を立てることだと身に染みて感じた。いつも私は計画を立てず、気が向くままに課題に取り組み、最終日に焦りながら終わらせるという夏休み、冬休みを送ってきた。中学では間に合っていたが、高校では通じないのだと、よく理解できた

。一度に多くのものに手をつけようとする挫折するというのはよく聞くが、私は自らその危険な道を進んでいたのである。これでは就職後迷惑をかけるだけの存在になってしまう。私の大きな課題は計画性を養っていくことだというのが明らかになった。他にも質問はしたかったのだが、積極性が欠けており、質問できなかった。コミュニケーション力のなさに伴う積極性のなさは改善していきたいものと思った。ここからは Oracle という企業自体に関してだ。Oracle は、個人というよりは法人に対してソフトウェアなどを提供するという普段あまり私たちの目に触れない企業だ。私が Oracle を知ったのも、Java 繋がりてたまたま知ったという感じである。しかし、Oracle は社会を支えている企業と言っても過言ではないのだ。他企業の情報管理などに大きく貢献しており、私たちがよく知っているほとんどの企業の背後には Oracle がいるだろう。企業に対してものを売るといっても、なかなか面白そうだった。

次に、二高 OBOG の方々の話だ。印象に残った言葉は数多くあったが、その中でも特に私の胸に焼き付いたものを列挙しよう。「実質と見かけを見極めろ」、「人の目を通して初めて見えてくるものがある」、「問題形式に慣れろ」。一つ目、「実質と見かけを見極めろ」についてだ。私が今回課題を答えを写せば出せたというのに自力でやろうとして出さなかった理由はこの言葉に影響されてのことだ。課題をちゃんと提出すればいいのか、課題をちゃんとマスターすればいいのか。私は後者のほうが良いと考える。暗記科目ならその答えは別だ。だが、問題を見ずに答えを写して提出しても、何の意味もないのではないかと思う。問題を見て答えを写す。これはまだマシであるが、これといった効果は暗記科目でしか得られないだろう。

もう一つ例をあげる。これはその OG の方が言っていたことなのだが、「授業で寝るぐらいなら、いっそその授業は出ないほうがいい」。確かにそうだ。眠くなる授業に出て、寝てしまったら身につくものは何もない。自分で自習したほうが遥かに良い。これからは、「実質と見かけ」という言葉を心にとめておきたいと思った。二つ目、「人の目を通して初めて見えてくるものがある」についてだ。私は、中学生の頃から、先生に質問するというのを嫌っていた。知識を深める目的で塾の先生にたまに質問しに行く程度であった。何故かという、私は、この世の学問は人間が作ったものであり、自分で理解できないはずがないと思っているからだ。理解できないことに悔しさを感じ、何度も読んで理解するということが多かった。しかし、

この言葉の通り、自分だけでは視野が狭く、細かい点が見えてこないのである。自分の間違っている点を知らないまま大学入試に向かえば、私は失敗するだろうと思った。勉強だけではない。自分の悩みも、他人に話してやっと解決の道が見えてくるということも多い。だから、もっと積極的に先生に質問しに行こうと思う。わからない点をわからないままにしておくのは非常に危険なことである。三つ目、「問題形式に慣れる」についてだ。高校入試は過去問を自主的に解くことがないままでも乗り越えられたが、大学の入試はそんなレベルではないのだ。もし、問題の傾向が分かっていたら、心に余裕が生まれるし、問題を解く順序なども事前に考えることができる。過去の資料を生かして入試に臨むというのも大切なことだとわかっ

た。東大合格した二高の先輩方の話を聞いて、やはり東大生は自分の考えというものはしっかり持って、それをわかりやすく主張することができるのだなと感心した。私には意見をわかりやすく主張する能力が欠けていると感じた。

最後に、今回の企画の中で最も重要なものであろう、「東京大学オープンキャンパス」だ。正直に言うと、私にとってこのオープンキャンパスは良いオープンキャンパスとは言い難いものであった。私は、工学部の学部説明会、そして理学部を見に行った。まず、工学部の説明会についてだが、正直これは酷いと思った。教授には申し訳ないのだが、「学部説明会」という名前でやっているというのに、教授のこれまでの研究の成果が述べられただけであった。私が知りたかったのは「工学部」に関する情報だということに、何故私的な話をするのか。私はその点が理解できなかった。本当に残念である。次に、理学部に関してだ。私が向かったのは理学部情報科学科だ。そこでは、プログラミングはもちろん、CPUの自作なども行っている

ようであった。暗号化などの勉強もしているようで、楽しそうだという印象を受けた。残念ながら工学部は活動しておらず、工学部に関する知識は白紙のままで終わってしまった。しっかり事前に調べておけばよかったものだ。また、私は「プログラミングの楽しみ」という東大生による講義にも参加した。前半は連立方程式を解くプログラム作り、後半は自分で作った Web サイトのハッキングという内容だった。前半を通して、プログラムを作るうえで一般化する難しさを、後半では、システムの脆弱性の恐怖を理解することができた。とても良い講義であった。

今回の企画で、これまで潜んでいた数々の自分の課題が浮かび上がった。これからは、この東大見学会で見つけた新たな課題を着実に解決していきたいと思う。東大に関してもう一つ言うと、やはり東北大と比較すると、東大オープンキャンパスは様々な点で劣っている印象を受けた。活気、オープンキャンパスの企画の不十分さが気になった。少なくとも私は、行けるか行けないかは別として、東大に行きたいとは思わなかった。自分の現在の第一志望、東京工業大学がどうなのか、気になるところである。